

将来ビジョン150 第3期中期行動計画(前期)を策定

令和7年度～令和10年度



第103号
令和6年12月



■注目記事

- カルチャー&スポーツ 2面
柔道部全国大会結果
全日本大学駅伝は17位
- アカデミック 3面
川村一代准教授が
学会最優秀論文賞を受賞
- グローバル 4面
日本文化と神道の魅力を世界へ
ワルシャワ大学で開催の国際会議に参加
- 5面
内定者ボイス(一般企業編)
- 中高トピックス 6面
高等学校・中学校で体育大会開催
- インフォメーション 7面
学園祭特集
- アクティヴスチューデント 8面
松山心さん(現日4)が
NPBをめざし独立リーグへ
勝田茉莉さん(高校)がアジア生物
学教育協議会で研究発表
- シリーズ
卒業生奮闘中 田中美有さん

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 大学院 | 文学部 教育学部
専攻科 | 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

本学では、「皇學館大学150教育研究ビジョン」に掲げる学修者本位の教育を実現し、社会有為の人材を育成すべく、令和7年度からの「第3期中期行動計画(前期)」を策定した。令和14年度に本学は創立150周年を迎える。この佳節に向け、地域に根差す教育・研究機関として一層の魅力化を図っていく。

「学修者本位の大学教育」を実現

本学では新たに「第3期中期行動計画(前期)」を策定した。これは、「皇學館大学150教育研究ビジョン」(本紙第99号参照)に示された本学の歴史と伝統の継承、及び我が国や地域の中核となる人材の養成・輩出等をさらに推進しようとするものだ。令和14年度に創立150周年を迎えるにあたり、同計画遂行期間を周年記念に合わせて令和7年度から令和14年度の8年に設定。社会情勢の変化に柔軟に対応できるように前期4年、後期4年に分けた。

「学修者本位の大学教育」を実現

具体的には左表の7項目を柱に創立150周年に向けて、

「学修者本位の大学教育」を実現し、社会情勢の変化に柔軟に対応できるように前期4年、後期4年に分けた。

第3期中期行動計画の柱

- 大学部門
- Ⅰ 学修者本位の大学教育
- Ⅱ 特色ある研究の推進
- Ⅲ 学生支援の充実
- Ⅳ 高大接続の改革
- Ⅴ 地域貢献活動の充実・発展
- Ⅵ 組織運営・財政基盤の強化と周年記念事業
- Ⅶ 高等学校・中学校部門
- Ⅷ 建学の精神に基づいたSociety 5.0を逞しく生きる人材育成



第一クラブハウスを建替え

令和7年8月竣工予定

長年にわたり学生が使用していた第一クラブハウスは、築40年が経過していることから、老朽化対策として建替えを実施。

新たな建物は鉄骨造3階建、延べ面積約1450㎡。芝生広場前駐輪場の土地に建てられ、工期は令和6年11月11日から同年8月31日までの約10カ月を予定している。



防音・断熱機能も改善され、安心・安全かつ快適な施設に生まれ変わる



草刈初の儀を執り行う小串和夫理事長。地鎮祭には25名が参列した

学生が快適にクラブ活動に取り組めるよう41の各部室には空調を設置。2階には自由に使用できるフリースペース(ジロティ)を設ける。またエレベーターやエレジも完備され、降雨時に濡れないよう約284台収容できる駐輪場を1階に配した。

11月14日、法人本部事務局の秦昌弘調査役が齋主、祭式研究部及び雅楽部の4名も奉仕し、地鎮祭が斎行された。理事長、学長、学友会委員長、施工関係者が玉串拝礼し、工事の安全を祈願した。

駅伝競走部主将 毛利選手が選手宣誓

全日本大学駅伝大会開会式



11月2日に名古屋商工会議所にて開催された秩父宮賜杯・第56回全日本大学駅伝対校選手権大会開会式において、本学駅伝競走部主将の毛利昂太選手が出場27チームを代表して選手宣誓を行った。毛利選手は「互いに切磋琢磨し合い、全力を尽くします。日頃支えてくださる方々への感謝を忘れず、大学の名に恥じぬよう、ここ熱田神宮から

伊勢神宮へと続く106.8キロの伊勢路を全力で駆け抜けていくことをここに誓います！」と力強く宣言。見事大役を果たした。

その言葉通り、翌3日に実施された本戦で本学は過去最高タイとなる17位(5時間31分36秒)でゴールし、来年の東海地区の出場枠2を確保した。大会の様子は2面で詳しく報じる。



皇學館大学では、老朽化した第一クラブハウスに代わる新クラブハウスの建設に取り掛かり、その地鎮祭がこのほど斎行された▼地鎮祭という土木や建築工事の起工に際して執り行われ、現代では、工事の安全や滞りなく完成するよう祈る場という捉え方が強いように感じられる▼しかし、文字どおりに捉えれば、第一義的には地を鎮めるということである。地を鎮めるとは、その土地を治めていらつしやる神様に、土地を使わせてもらう許しを乞うということになる▼地鎮祭の最も古い記録は『日本書紀』持統天皇五年十月条にある「新益の京を鎮め祭らむ」とあるという。鎮めるといふのは、土地を治められる神様が荒ぶることの無いように祈るということである▼お祭りの中の所作も、土地の神様の許しを得て行う工事完成の予祝をするものといえよう。さらに、鎮め物を含めて平安な土地であることが保証される▼災害の多い日本だからこそ、こういう信仰が発達した背景があるといえるのではないか。地鎮祭を通じて、大地が安定する大切さを考えることができた。

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

清水 潔 学事顧問が 瑞宝中綬章受章



本学元学長で現在学事顧問を務める清水潔氏(大6史・院6)が令和6年「秋の叙勲」で瑞宝中綬章を受章した。

清水学事顧問は昭和23年11月、三重県生まれ。同48年に本学文学部助手に採用された。

御礼

平素より本法人の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

学校法人皇學館 理事長 小串和夫

強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部) 全国大会出場協賛金納入状況報告

Table with 4 columns: 区分, 件数, 協賛金(円), 合計. Total 3,016,000.



空手道部・西村浩行監督が 組手で優勝

10月26日、27日に群馬県の高崎アリーナで「船越義珍杯第16回世界空手道選手権大会」が開催され、本学空手道部の西村浩行監督(大19史)が「組手」(60~64歳の部)で優勝する快挙を成し遂げた。



存在感を見せつけた柔道部員たち

全日本学生柔道体重別選手権大会

Table of Judo tournament results by weight class (66kg to 100kg+).

全日本学生柔道体重別団体優勝大会

Table of Judo team tournament results.

Table of 100km run results by region.

寺田監督は「1区から8区まで諦めず必死で押すついでくれたおかげで走ってきた。増枠は喜ばしいことだが、出場が決まったわけではない。また今日から気を引き締め、次の大会に向け頑張っていく」と決意を語った。

12月8日に開催された東海学生駅伝では名古屋大学、愛知工業大学との接戦を制して2年ぶり7回目の優勝を果たし、出雲駅伝の出場権を獲得した。

決勝後個人賞の発表があり、4回裏でツーベースヒットを放つ活躍を見せた小林亮太選手が優秀選手賞を受賞した。

10月5日、6日、日本武道館において2024年度全日本学生柔道体重別選手権大会(男子43回)が開催され、本学から9名(別表参照)が出場した。

全国大会でベスト4の強豪・中央大学。先鋒の柏谷選手が一本勝ちをおさめるも、その後は一進一退の攻防に。副将の高橋選手が果敢に攻めたが、わずかな隙に技ありを取られ、1-2で敗れた。

11月3日、秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝が開催された。熱田神宮と伊勢神宮内宮宇治橋前を結び、8区間106.8キロ。2大会ぶり7回

た「地区枠の増枠」を達成した。選手宣誓の大役を担い、2区を走った主将の毛利昂太選手は「紫上最皇史上最高」とのスローガンを掲げてやってきた。今までの順位を超えることはできなかったが、目標の一つを叶え、経験豊富な4年生と勢いのある下級生が融合する皇學館らしいレースができた」と話す。

強豪・中央大に惜敗も 「さすが皇學館」の声 全日本学生柔道体重別選手権大会・団体優勝大会

過去最高タイの17位 東海地区枠「2」を達成 第56回全日本大学駅伝

Table of 56th All Japan University Relay Race results.



力走する岩島選手

中部学院大に競り負けも 小林亮太選手が優秀選手賞

令和6年度 東海地区大学野球秋季選手権大会



強豪・中部学院大学に惜敗した硬式野球部。明治神宮大会に向け、気持ち新たに練習に励む

10月26日に岐阜県リーグ1位の中部学院大学と激突。1回裏で1点先制されるも3回裏で同点に追い付き、4回裏には2アウトからの3連打で2点を奪い1-3と勝ち越す。しかし、守備の乱れから5回裏で逆転を許し、3-5で惜しくも敗退した。

明治神宮大会への切符をかき、三重、岐阜、静岡の各県秋季リーグ戦上位2校が戦う令和6年度東海地区大学野球秋季選手権大会(兼第20回東海・北陸・愛知三連盟王座代表決定戦)が10月25日、27日、ダイムスタジアム伊勢で開催された。

次期学長に齋藤平教授を選任

10月25日開催の理事会において、次期学長に齋藤平教授を選任した。河野訓現学長の任期満了に伴うもので、任期は令和7年4月1日より4年間。



略歴 (令和6年10月1日現在)	
昭和39年12月26日生まれ・満59歳	
学歴	昭和63年3月 皇學館大学文学部国文学科卒業 平成2年3月 皇學館大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程修了 令和4年1月 学位「博士(文学)」取得(皇學館大学)
主な職歴・役職等	平成4年4月 皇學館大学助手 平成12年4月 皇學館大学文学部講師 平成16年4月 皇學館大学文学部助教授 平成19年4月 皇學館大学文学部准教授 平成25年4月 皇學館大学文学部教授(現在に至る) 平成25年4月 皇學館大学教育開発センター長(令和3年3月迄) 令和3年4月 皇學館大学学生部長(令和5年3月迄) 令和5年4月 皇學館大学副学長(現在に至る) 令和5年4月 皇學館大学アドミッション・オフィス室長(現在に至る)
受賞歴	令和元年10月 三重県私学総連合会優良教職員三重県知事表彰

川村准教授が学会最優秀論文賞を受賞

本学文学部コミュニケーション学科・川村一准教授の執筆した論文「Assessing the interactional competence in English speaking of Japanese junior high school students in an interview test」(関西大学外国語学部/大学院外国語教育研究科竹内理教授との共著)が、日本語テスト学会の第14回最優秀論文賞を受賞し、10月5日に上智大学で開催された同学会全国大会の授賞式で表彰された。日本語テスト学会は、わが国の外国語教育改善の視点を外国語能力の測定と評価の研究・実践に求め、国際社会の外国語教育発展に貢献することを趣旨とする。

学会で、最優秀論文賞は創造的で学術的及び教育的な貢献が認められるものに贈られる。スピーキング能力には文法や語彙、音韻を適切に扱う「言語能力」と対話を継続・発展させる「対話能力」が含まれる。スピーキングの評価には従来言語能力が重視されてきたが、英語でコミュニケーションを図るには対話能力も必要である。受賞論文は日本人中学生を対象とした教師による面接テストでの対話能力の評価に焦点を当て、面接テストでは教師が対話を主導するため生徒の対話能力を引き出しにくいことを示した。



英語スピーキングにおける「対話能力」の評価に着目した意欲的な論文と高い評価を受けた

学生が志摩市のPRショート動画を作成

山中永羽さん(国文3)と川上諒太郎さん(現日3)が作成した志摩市の魅力を発信するショート動画5本が市の公式YouTubeチャンネルで令和6年9月27日から一般公開されている。「伊勢志摩共生学実習」の一環で、市職員の方々と会議を重ねながらおよそ4カ月間で完成させた。

山中さんは地元の大学生おススメの「志摩の海の風景」をランキング形式で紹介する動画のほか、中学生の頃浄瑠璃に関わった経験から、伝統芸能「安乗の人形芝居」の魅力を伝える動画を手掛けた。

市外出身の川上さんはターゲット層である「志摩市を訪れたことがない若者」が自身に重なるとして、自分が行ってみたい場所を取材。クルーズ船から見た英虞湾の風景や国府白浜など、3本の作品をまとめた。

山中さんは「人に伝える難しさを感じた」、川上さんは「いろいろな所に行き、志摩の魅力を見つけたと思う機会になった」と話した。

「命を守る行動を」地震避難訓練を実施

10月10日、4講時終了後、学生・教職員を対象とした地震避難訓練を行った。



9号館2階・総合体育館メインアリーナに設置されている屋内消火栓で実演

16時43分、緊急地震速報が放送されると、教職員の誘導により学生が芝生広場に整列。次に、全員に送信済である安否確認メールについて、必ず返信するよう指示が出された。

加藤純一学生部長は講評で令和6年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ多くの自然災害があったことに触れ、「よく耳にしたのは『命を守る行動を取りましょう』という言葉。誰かではなく、自分で自分の命を守る行動がとても大切です。そのために、こうした訓練が有効。大学だけでなく地域の活動にも参加し、防災意識を高めてほしい」と訴えた。

その後、各クラブの代表者、希望者は屋内消火栓の使用方法について伊勢市消防本部の方から指導を受けるため移動。学生は扉内に書かれた説明を読み上げながら実際にホースを出し、使い方を確認していた。



県内スーパーの食品売り場で活用されている

学生が考案したキャラクター「オチャビット」がスーパーの食品売り場ポップやポスターに登場し、三重県が推し進める食品ロス削減に一役買っている。

きっかけは、三重県環境生活部リサイクル推進班から教育学科の駒田聡子教授率いるゼミに食品ロス削減の取り組みとして使用するレールポップやポスター、箸袋のデザイン依頼が舞い込んだこと。折しも、同ゼミが関わった令和5年度おかげキャンパスプロジェクト「伊勢茶振興プロジェクト」で亀

山市の小学生の意見を取り入れ作成したキャラクターが好評だったことから、今回の起用に至った。

学生からは「自分たちがデザインしたレールポップをスーパーで見かけると嬉しいし、手前から取るうという気持ちになる」「消費期限をチェックし、期限が近いものから使うようになった」「野菜の皮に栄養があることを知り、調理の際に捨てる部分が少なくなった」といった声が上がっており、意識や行動の変化につながったようだ。「産地など今まで気にしていなかったが、地元や三重県産に目が行くようになった」と地産地消への関心が高まった学生もあり、学びの輪が広がっている。

駒田ゼミでは余剰の食品を無料で提供する「フードパントリー」や廃棄される食材をおいしく食すアイデア料理のイベントなど、食品ロス削減に向けた活動を今後も続けていく。

学生考案キャラ「オチャビット」が食品ロス削減に一役



おかげキャンパスプロジェクト

卒業生奮闘中!

伊勢市立城田小学校教諭 第27回国際昆虫学会で「Presentation Awards for Women Scientist」を受賞
教育学専攻(第10回)令和5年3月修了

田中美有さん

私は皇學館大学教育学部を卒業後、小、中学校教諭として5年勤務していました。日々業務に追われる中で、より深く研究を極めたいと考え、一念発起して退職し母校の大学院への進学を決意しました。進学後は学部生の頃から取り組んできた寄生蜂の研究に従事し、キアシヤガサムライコマユバチが終齢の寄主幼虫に産卵できない理由を明らかにしました。

大学院修了後は公立小学校教諭として勤務する傍ら、休日を生かしてできる限り研究活動を続けてきました。そのような中、大学の恩師から国際昆虫学会への発表の誘いを受けました。本国際会議は4千人以上の研究者が集う昆虫学に関する世界最大規模の歴史ある学術会議です。このような会議への出場は経験したことがなく、不安もありましたが、研究の成果を世界中の研究者にアピールする絶好の機会と確信し出場を決意しました。そして、1065題のポスター発表が行われる中、優れた女性研究者に贈られる Presentation Awards for Women Scientistを受賞しました。

私は人と比べて研究力が優れているわけでもなく、英語も得意ではありません。ですが、諦めずに挑戦しようとする情熱は誰にも負けないと負っています。また、所属している研究室には同じ志を持ち、支えてくれる仲間が多く在籍しています。今回の受賞はこうした仲間の心強いサポートのおかげと深く感謝しています。目標を共有できる仲間の存在は偉大です。自分一人ではできないことも、人と協力することで成し遂げられるのです。後輩のみなさんも大学時代に部活動、ゼミ活動等を通して、素敵な仲間を見つけてください。

Global グローバル

日本文化と神道の魅力を世界へ ワルシャワ大学で開催の国際会議に参加

10月14日から16日にかけて、本学と連携協定を結ぶポーランドの名門ワルシャワ大学にて第18回国際会議「日本の宗教―過去の遺産と現代の課題―」が開催され、教員2名が現地参加した。

初日のオープニングセレモニーでは、「世界平和を祈る神道儀礼を」と事前に寄せられた要望を受け、神職資格を有する神道学科の高野裕基助教が神宮遥拝式を執り行った。祝詞奏上の後、駐ポーランド日本国大使(代理)やワルシャワ大学学長が玉串を奉奠し、厳かな雰囲気の中、儀式は滞りなく進行した。続いて、現代日本社会学科の瓜田理子准教授が「Resilience and Renewal: Shinto's Role in Addressing Contemporary Challenges in Japan (レジリエンスとChallenges in Japan)」を受け本学に留学したワルシャワ大学大学院生による成果報告が行われ、全員から感謝の意が述べられた。この基金の重要性を再認識するとともに、学術交流の意義を深く感じる機会となった。



祝詞を奏上する高野助教



基調講演を行う瓜田准教授

再生・現代日本の課題に取り組む神道の役割」と題した基調講演を英語で行い、神宮式年遷宮と神楽を事例に、神道の柔軟性と継続力について語った。翌15日には「神宮式年遷宮」をテーマとした特別セッションが行われた。櫻井治男名誉教授が司会を務めた。櫻井治男名誉教授や田浦雅徳名誉教授がコメンテーターとして参加。塩川哲朗准教授、高野助教、瓜田准教授が登壇し、ワルシャワ大学のアグネシカ・コズイラ教授とエヴァ・ルトコフスカ教授とともにそれぞれの専門分野に基づく報告を行った。締めくくりとして「伊勢神宮はなぜ聖地であり続けるのか」をテーマにした議論が展開された。

富永教授に市民功労賞 伊勢市の情報公開制度に貢献

現代日本社会学部の富永健教授が伊勢市の発展に尽力し、功績のあった人に贈られる「市民功労賞」を受賞した。



富永教授は平成11年より伊勢市情報公開審査会の委員を務め、同29年からは会長に就任している。富永教授は受賞について「情報公開制度は、市民に市政への参加を促し、理解と信頼を深めることによって公正で開かれた市政の推進につなげることを目的に創設されました。こうした有意義な制度に関わりを持ってたことに感謝しております。私自身も大いに学ぶことができました。今後とも伊勢市のために力を尽くしたいと存じます」と語った。

「綱はふたすじ心は一つ」 初穂曳に学生約90名が参加

「神嘗奉祝祭」第53回初穂曳行事が10月15日に行われ、学生約90名が参加した。本学では神宮奉



仕会のご配慮により平成19年度より初穂曳行事に参加させていただいている。コロナ禍で中断していたが昨年再開。今回の奉曳は皇學館奉曳会(学生有志による木遣り団体)の学生2名が音頭を取り、「綱はふたすじ心は一つ赤き心で曳く初穂」など伝統の木遣り歌で盛り上げた。曳き手の学生たちは綱を上下に振ったり左右の綱を中央で押し合う「練り」をしたりと、元気いっばいに楽しんでいた。

鈴木汐里さん(教育2)は「7月から木遣りの練習に取り組んできた。普段は出さない大きな声を発することや唄自体、とても難しく感じたが、奉仕会の方々ができるまで一緒にやってくれた。県外出身者だが本学に入ったことで伊勢でしか体験できない行事に参加でき、とてもよかった」と感想を話した。

令和6年度 山室山参拝・参拝 見学を実施

本学恒例の山室山参拝・参拝見学が11月5日に実施された。本行事は建学の精神を確実に理解し、本学の伝統的学風を体認する大切な行事として位置付けられている。参拝・見学先はいずれも神宮及び神道・国学



山室山への参拝は神宮皇學館以来の伝統行事

年次	学部	参拝・見学先
1年	神・文・史・コ	山室山参拝
2年	神・文・史・コ	瀧原宮 丹生神社・神宮寺
	教・現	内宮・外宮
3年	神・文・史・コ	伊雑宮 御塩殿神社
	神・文・史・コ	結城神社
4年	神・文・史・コ	三重縣護國神社
	専攻科	山室山参拝

に縁があり、日本の歴史にとって重要な意義を持つ。国学者・本居宣長の奥墓がある山室山参拝では祭典と献詠、宣長翁の業績や本学との関わりについての講話が行われた。

献詠歌 (抜粋)

宮川の谷渡り来る涼風に
一息つけり多度の神社
神楽歌がすかにひびく正宮に
螢のひかりひとつ舞ひきぬ
古き事訪ねてかよふ学の道
大人も見守る皇学の館
言霊のさきはふ国の諸人は
大人の御前に歌たてまつる
大峯の千々の巖々攀ち行けば
雲のうちより法螺の音聞ゆ

教職員 理事長 小串 和夫
学生(入選) 専攻1 河崎由紀夫
学生(入選) 国史3 松島 諒
選者 教授 大島 信生
選者 教授 松本 丘

ローズヒル校より13名が来校 皇學館高等学校

本校ではオーストラリア・メルボルンのローズヒル校と姉妹校協定を結び、平成14年より隔年で相互に訪問して友好を深めている。今回はローズヒル校の教員3名、生徒10名が9月21日から1週間の日程で来校。本校生徒との交流を楽しんだ。



書道体験など、日本の伝統文化を満喫したローズヒル生たち

初日に催された歓迎会では吹奏楽部が両国の国歌を演奏。続いて本校の代表生徒が英語で挨拶をし、ローズヒル生が日本語で自己紹介をした。25日には記念館でお茶会体験が行われ、茶道部員がお点前を披露。ローズヒル生は所作に見入ったり抹茶を味わったりしながら、伝統文化の一端を感じ取っていた。

- 最初は緊張したけれど一緒に遊ぶうちに話すようになり、伝えたいことがきちんと伝わるようになった。ホームステイ後もメールや手紙を交換し、つながっていることが嬉しい。
- 最後の方はつたない英語ながらも自分の考えを伝えることができた。まずは言葉を通してみるのが大事だと気付いた。国が違っても心から笑い合えると知った。
- 留学生の受け入れをしたことにより一層英語に興味を持った。教科書では習わない若者が使う表現などを教えてもらった。英語の楽しさと難しさを学ぶことができた。
- 英語力の向上はもちろん、おかげ横丁散策やフェアウェルパーティなどローズヒル生とさまざまな体験をし、とても濃い時間を過ごせた。
- 初めて会った日は緊張して話せなかったが、休日に外出したり家で遊んだり一緒に勉強するうちに、思っていたよりずっと仲良くなった。

タイの小中高生31名と交流

皇學館中学校



10月9日、タイのアサンブションカレッジ・シラチャ校の小中高生あわせて31名が来校。本校2年生と交流授業を行った。

高校体育館で歓迎式、セミナーホールでは本校日本文化部による箏の演奏が披露され、着物の着付け体験や箏の演奏体験を楽しんでいただいた。その後、調理室に移動し、グループに分かれて調理実習を実施。英語のレシピをもとに「巻きずし」と「あおさみそ汁」作りに挑戦した。本校生徒もジェス

チャーを交えながら英語で説明するなどしてサポートし、みんなで協力して作る事ができた。

2時間という短い時間だったが日本の文化を知っていただき、友好を深める一日となった。生徒たちは日頃の学習の成果を発揮して堂々と英語で話し、一緒にランチを食べながら会話を楽しみむなど、英語によるコミュニケーションの実践と、国境を越えて交流を深める良い機会となった。

令和6年度
内定状況(中間報告)

503名が内定

内定率77.3%
(令和6年12月1日現在)

採用意欲は堅調、昨年度よりも好調に進捗

12月1日時点の就職内定率は77.3% (内定者数503名/就職希望者651名)と昨年同時期より3.7ポイント上昇した。

株式会社マイナビによると、企業の採用予定数は「前年並み」が最多で74.8% (対前年比2.5ポイント増)、「増やした」が18.5% (対前年比1.2ポイント増)、「減らした」が6.7% (対前年比1.2ポイント減)となった。採用予定数はむやみに増やさず、前年度並みに設定している様子が見えつつある中、「図1」、本学学生の活発な動きが好調な結果として現れている。

企業・団体
内々定の時期がさらに早期化

採用市場について25年卒は特に3月の内々定率が大きく伸び、また、1人当たりの内々定保

有社数が増加した。

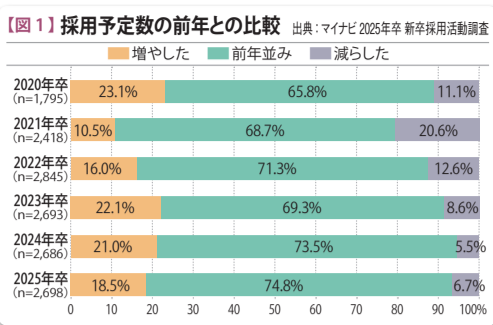


図2 内定先内訳の表。神大、企業・団体、医療・福祉、公務員、教員(小中専)、教員(幼・保育士)の各カテゴリーの人数を比較している。

公務員
延べ合格者数は既に昨年度越え

今年度の公務員試験も、日程や内容に変動が見られた。引き続き地方を中心に学生の「安定、地元」志向は高く、倍率にばらつきはあるものの、行政職は全般的に高水準傾向である。

現時点の合格者は延べ77名で、12月1日までの判明分が昨年度を上回った。特に、現代日本社会学部は卒業見込者数の2割以上が公務員として就職する見込みとなっている。合格先の内訳は、三重県庁(行政職・福祉職)、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、静岡市、沼津市、名古屋市、新城市、豊川市、菰野町、明和町、玉城町、大紀町、三重県警、警視庁、埼玉県警、大阪府警、兵庫県警、四日市市消防、鈴鹿市消防、松阪地区広

域消防、伊勢市消防、奈良県広域消防、自衛官(一般幹部候補生、一般曹候補生)となっている。

就職関係

三重県は既卒も含め143名が合格

令和6年度教員採用試験結果は、三重県については既卒も含め143名が合格(本紙前号第102号で詳報)、三重県以外では23名が現役合格した。合格した都道府県市については以下の通り。

【中学校】愛知県(国語)・岐阜県(国語・社会)・浜松市(国語)・神奈川県(英語)・川崎市(国語)・福岡県(国語)・小学校 愛知県・岐阜県・福岡県・北海道

【特別支援学校】滋賀県・神奈川県・東京都

11月21日、231教室で現役合格を果たした4年生6名(小学校・中学校・特別支援学校)による合格者報告会を開催。約200名が参加し、関心の高さがうかがえた。報告会では、いつからどんな準備をしたか、絶対に今からやっておいたほうが良いことなどの質問にそれぞれ6名が自身の経験から話をすると、熱心にメモを取る姿が見られた。

神社関係
採用内定率は好調

12月1日現在の今年の求人状況は昨年同時期に比べ12社38名増の189社356名の求人を見込んでいる。神社奉職希望者に対する採用内定率は80.0%となっている。内訳は学部生43名・大学院生4名・専攻科生2名の49名(自家奉職者含む)。昨年同時期67名。神職養成担当では引き続き、未内定者の個別面談や面接指導を行い、神社関係への奉職希望者が全員採用内定できるように努めていく。

令和6年度 保護者対象
就職講演会・説明会を開催

希望者には動画を配信

令和6年10月6日、「保護者対象就職講演会・説明会」を事前予約制で開催した。会場には45名のご出席をいただき、オンデマンドでの視聴を希望された39名に収録動画を後日配信した。

「就職活動の最新事情と親の3大NGと関わり方」との題目で開かれた講演会では株式会社学情のキャリアサポート部マネージャーである江村朋裕氏が最新の就活環境や企業と学生の動きを解説され、保護者として気を付けておくべきことや支援のあり方を分かりやすく説明していただいた。

サポートのポイント

- 1. 常にコミュニケーションをとる、聞いてあげる
2. 志望している企業名を知る、覚える
3. 志望企業が不採用の時こそ励ましを
4. 金銭的サポートも必要
5. 企業はご家庭の対応にも注目している(電話対応に注意)
6. お困りの際は、早めに大学に相談を

保護者の主な感想

- 保護者の関わり方について、こういう機会がないと知り得なかった情報だったので参加して良かったです。大学のサポート体制がきちんとなされており、大変安心しました。
●就職活動の最新事情と親の関わり方を大変分かりやすく説明していただきました。自分もつい家であってしまっているNGがあったので気を付けたいです。

学生が英語絵本の読み聞かせ
三重県立図書館30周年記念事業

11月4日、三重県立図書館で三重県立図書館移転・開館30周年記念事業のイベントである「秋の英語おはなし会」が未就学児から小学校低学年を対象に開催され、本学コミュニケーション学科3年の小林万里奈さん、田保花蓮さん、4年の大西汰知さんが英語絵本の読み聞かせを行った。秋にちなみ、行楽・食をテーマとした絵本『A Trip to Grandma's House, The Doorbell Rang, The very hungry caterpillar』を英語でやり取りをしながら読んだ。大西さんは、「子どもたちが声掛けや絵本の内容に反応してくれ、楽しく読み聞かせできた」と感想を語った。3人は伊勢図書館での英語絵本の読み聞かせボランティアをしており、その経験が生かされたようだ。



「秋の英語おはなし会」が未就学児から小学校低学年を対象に開催され、本学コミュニケーション学科3年の小林万里奈さん、田保花蓮さん、4年の大西汰知さんが英語絵本の読み聞かせを行った。秋にちなみ、行楽・食をテーマとした絵本『A Trip to Grandma's House, The Doorbell Rang, The very hungry caterpillar』を英語でやり取りをしながら読んだ。大西さんは、「子どもたちが声掛けや絵本の内容に反応してくれ、楽しく読み聞かせできた」と感想を語った。3人は伊勢図書館での英語絵本の読み聞かせボランティアをしており、その経験が生かされたようだ。

内定者ボイス
一般企業編

- ① 大学で得た学び ② アピールポイント、成功の秘訣 ③ 先輩へのアドバイス

早めの準備がカギとなる就職活動。今回は一般企業で内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

石原 草太(天道)

【内定先】日本ハム株式会社



1ゼミで何度もプレゼンを行ったので、人前で話すことに抵抗感がなくなりました。

2学科名や学びの内容に面接官が興味を持ってくれたので、学修への取り組みをアピールできた。また、企業が出している情報に目を通すなど

3勉強のコツは毎日数分でも問題に触れて慣れること。早めに志望業界を絞っておくことも重要。

大河内 茜(国史)

【内定先】株式会社御木本真珠島(学芸員)



1学芸員の先生から学ぶ「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」や企画・設営など、自分たちですべて行う「卒業展示」で実践力を養えた。

2子どもたちに伝統や文化、歴史を楽しく学んでもらえるよう、学芸員に加える教員免許も取得予定。

3広い視野を持つて自分のやりたいことや強みを最大限に生かせる業界・仕事を探そう。

織田 夢叶(教育)

【内定先】株式会社福井銀行



1CLL活動を通して出会う人の数や責任を感じる場面が増え、同じ目的のもと多くの方々と行動する楽しさを知った。

2行動や考えの一つひとつに理由付けをして、自己分析を徹底した。大学の経験が面接に活かせるので、記録することを心掛けた。

3自己を振り返る習慣を付けよう。企業はインターシップで意欲の高さを評価していると感じたので積極的に参加を。

吉原 花梨(国文)

【内定先】住友林業株式会社



1ゼミで方言学を学んだことから地域の人々の暮らしに興味を持ち、住業界に目を向けるきっかけにもなった。

2就職担当の面接練習では、企業が求める力を自身がどのように発揮できるかについて伝えるように気を付けた。

3困った不安を解消することが大切。

玉井 寧央(コミ)

【内定先】三菱電機ビルソリューションズ株式会社



1ゼミで国際情勢を学んだため、時事問題の質問にしっかり対応できた。

2JAZZ部での広報活動、演奏会企画といった経験が面接で話した。部活の熱心な取り組みがアピールにおける大きな比重を占めた。

3業界ではなく、何をやりたいかではなく、共通点があれば複数の業界を横断的に見てみよう。

大西 侑里(現巨)

【内定先】近畿日本鉄道株式会社



1先生の助言をきっかけに1年次からCLL活動に参加。社会人に必要な基礎的なスキルを学べただけでなく、面接の話題がたくさんできた。

2就職担当の面接練習。失敗できる場でも練習することが対策になった。助言やふさふさしい言い方などを教えてくれる。学

内講座を活用して取得したMOS資格が役立つ。3早期の準備に尽きる。まずは就職担当に行こう。

中高生徒が教育勅語の謹書

「家庭に感謝する日」の行事

10月30日、皇學館高等学校、中学校において「家庭に感謝する日」の行事が行われ、生徒全員が教育勅語の謹書を行った。また、生徒はこの日までに家族への感謝の気持ちを作文に綴り、「ありがとう」の思いを改めて感じたようだ。なお、謹書は後日装丁し、明治神宮に奉納される。



集中して教育勅語を謹書する生徒たち。高等学校(左)、中学校(右)

高等学校・中学校

3名が優良生徒表彰

第60回 三重県私学大会

10月19日、三重県総合文化センターにおいて第60回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校の飯田育也さん、岡本兼成さん、皇學館中学校の三島香里奈さんが優良生徒表彰を受けた。以下に3名のコメントを紹介する。



左から順に飯田さん、岡本さん、三島さん

飯田 育也 (皇學館高等学校)

受賞できた大きな要因に、生徒会活動があったと考えられる。思い返せば、初めは自信を持って仕事に臨んだが、未熟なことも多くたくさんの方たちの協力があってやっと生徒会として活動することができた。その時改めて学校生活がたくさんの方の協力の上で成り立っていると気付かされた。

この表彰に慢心せずに、これからも周りの人への感謝を忘れず、残り少ない学校生活を過ごしていきたい。

岡本 兼成 (皇學館高等学校)

当たり前な事を当たり前にする凡事徹底の態度で日常生活を送ることが大切だと思います。常日頃から小さなことにも気を配り、丁寧に取り組んでいけば、いざという時に失敗することなく行動できると思います。

三島 香里奈 (皇學館中学校)

会場には三重県の副知事をはじめとする多数の来賓の方が出席されており、私と同学年の生徒を含め、計34名が優良児童表彰を受けていました。このような場に出席することができ、さらに気を引き締めて生活していこうと思いました。貴重な時間でしたし、とても良い体験となりました。

職業観が広がり、成長を感じた2日間

2年生が大阪で宿泊研修

本校2年生が11月24日・25日に1泊2日の日程で大阪へ宿泊研修に出かけた。キャリア教育の一環として金属工業・報道・空港・エネルギーなど多彩な分野の職場見学を行い、生徒たちにとっては自身の職業観を広げ、将来の進路について考える研修となったようだ。以下に生徒の感想を掲載する。



NHK大阪放送局(左)と野田金属工業株式会社(右)にて

- 研修を終えて、私は将来就くであろう職に対する考え方を広げることができたと思います。例えば野田金属工業では、金属の折り曲げや切断といった加工に対する職人さんたちのこだわりや、一つひとつオーダーメイドで客が求めるものを生み出す職人さんのモノづくりへの熱い思いを感じました。
- 今回宿泊研修が終わって思ったことは、チームワークが高まったということです。とくに集合では皆がスッと動いていたり、3分前集合がきちんと守られたりと、互いに声を掛けあって助け合うことができました。自分たちの成長を感じながらとても楽しく過ごせた2日間でした。

秋空に声援響く

第62回 体育大会を開催

10月1日、澄み切った秋晴れのもと、第62回体育大会が開催された。種目数が増えた今回はバンブーレース・人間輪くぐり(1年)、2人3脚リレー・ボールデリバリー(2年)、ドラゴンレース・大縄跳び(3年)といった学年別競技のほか、クラブ対抗リレー、学年対抗綱引き、20人リレーなどいずれも手に汗握る戦いが繰り広げられ、大いに盛り上がった。

【結果】

1位	3年2組
2位	1年4組
3位	2年3組



渾身の力で引く「綱引き」(左)とユニフォーム姿で走る「クラブ対抗リレー」(右)

楽しいだけでなく、友情も深まる

総務副委員長 岡本 成矢

今回の体育大会では全校生徒が一丸となって競技に臨み、行事として充実したものになったと思います。リレーや綱引きでは応援にも力が入り、各クラスが共に勝利を目指す姿、その団結力がとても印象的でした。私にとって初めての体育大会であり、皆さんに楽しんでもらえるかなど不安もありましたが、校友会の先輩方

や先生方、そして協力的な生徒の皆さんのおかげで、大きなトラブルもなく行うことができました。また、応援合戦では各学年の個性が発揮され、会場全体が一層盛り上がりました。今回の体育大会は楽しいだけでなく、友情も深まる良いものだったと感じました。

クラスのまとまりが一段と深まる

令和6年度 体育大会を開催

すっきりと晴れ渡り、絶好の運動日和となった11月6日、皇學館中学校で体育大会が行われた。どの生徒も競技だけでなく応援においても全力を尽くし、クラスのまとまりが一段と深まる大変有意義な一日となった。



【結果】

1位	3年
2位	2年
3位	1年



今年抱いた思いを糧に

校友会・2年A組 小林 なな子

チャレンジャー・ザ・ギネスではクラスの皆と団結でき、無事1位になれて良かったです。しかし、クラスの目標だった200回を達成できず、とても悔しかったです。来年は有言実行したいです。また、バンブーレースでは3年生に負けてしまい、苦

い思いをしました。終盤でも1年生に追い上げられそうになり、とても焦りました。来年は私たちが3年生となり、中学校最後の体育大会になります。今回抱いたさまざまな思いを糧に有終の美を飾りたいです。

クラス一丸となって頑張った

校友会・3年A組 若林 京汰

私は、中学生最後の体育大会で色々なことを感じました。最初の準備では、3年生である私たちが率先して後輩たちのサポートをしました。競技開始後は練習通りに競技に臨むことができ、練習以上の成果を上げることができました。チャレンジャー・ザ・ギネスだけは1位を取るこ

とができなかったですが、全ての競技でクラス一丸となって頑張りました。2度の延期を経た体育大会でしたが、先生方や多くの方々のおかげで最後まで楽しく行うことができました。高校での体育大会でも全力で取り組みたいと思います。

皇學館大学出版部

新刊のご案内

12月までに出版された新刊書籍のご紹介です。

素材から作るレシピ集

駒田 聡子 著
A5判
定価 374円(本体価格 340円)

家庭にある調味料と素材(野菜・果物、肉、魚、卵、牛乳・乳製品、大豆製品、海藻等)を使い、幼児から高齢者まで作ることができるオリジナル料理とお菓子を紹介しています。



講演叢書 ~令和5年度 月例文化講座~

年間テーマ 現代日本社会の諸相
定価 524円(本体価格 477円) ◆B6判

第209輯	選挙の意義と仕組み —選挙をめぐる諸問題—	富永 健 著
第210輯	地域で輝く若者たち—「ウツボで地産地消プロジェクト」の事例から—	藤井 恭子 著
第211輯	伝統文化教育の再建 —大和魂の復興へ—	岩崎 正彌 著
第212輯	アフターコロナの地域交通を考える —共助型交通の可能性—	笠原 正嗣 著
第213輯	財産管理のサポート —日常生活自立支援事業と成年後見制度—	鷗 沼憲 晴 著
第214輯	日本の外交安全保障と中国、ロシア、北朝鮮 —我が国の平和と独立を守り抜くために—	村上 政俊 著
第215輯	政府の「骨太の方針」と地方の活性化	新田 均 著

お問い合わせ先
皇學館大学出版部 TEL 0596-22-6320
ご注文の際は、出版部ホームページ(右記のコードからアクセスできます)からお申込みください。
<http://shuppan.kogakkan-u.ac.jp/>



令和6年度 皇學館大学教育学部 卒業記念ミュージカル

海と陸をつなぐ宝物

「はじめまして」は勇気の一步

3/8日 3/9日
予約不要・入場無料
皇學館大学記念講堂
開場 13:30 開演 14:00

5年ぶりに教育学部4年生有志によるミュージカルが帰ってきました!
リルとルナは、海に捨てられたゴミに悩んでいるよ。いっしょにゴミをなくす方法を探に行こう! 会場みんなを待ってるよ!!

【問合せ】
皇學館大学 教育学部 教育学科 研究室
TEL 0596-22-6458



人事異動

()内は旧職

令和6年10月31日付

退職
神職養成部 神職養成担当 課長 北野 貴之

令和6年11月1日付

採用
大学事務局 神職養成部 部長 奥山 哲也

配置換
法人本部署 調査役 秦 昌弘
(大学事務局 神職養成部 部長)

新任教職員紹介

令和6年11月1日付

①出身・経歴 ②趣味・特技 ③座右の銘 ④メッセージ

神職養成部 部長
奥山 哲也
①三重県 ◆皇學館大学文学部
神道学科卒 ②映画鑑賞、博物館巡り
③向上心 ④神職を志す学生をしっかりサポートするよう努めます。よろしくお願いいたします。



“今年らしさ”を盛り込み、活気あふれる学園祭に

第63回 倉陵祭 11/2日~3日

テーマ ●花車 ~はなぐるま~

たくさんの学生、一般市民が参加

実行委員長 瀬戸口 未来 (国文3年)



昨年度よりコロナ禍を乗り越え、一般の方々の来場や模擬店の再開など以前の形に戻すことができたものの、一部の学生による「倉陵祭」になっているのではないかと懸念がありました。そこで今年はよりたくさんの学生に関わってもらおうと、部活動に所属していない学生が参加できるイベント「竹あかり」を取り入れました。SNSでの発信や、後夜祭は一般の方も参加できるようにしました。おかげで、晴天となった2日目は駅伝開催とも相まって多くの人で賑わい、楽しんでいただけたと思います。

学修の成果を発表する場としてだけでなく、地域に還元し、さらには倉陵祭を作り上げていく過程、成功のために努力する姿勢こそが倉陵祭の存在意義であり、一番大切な部分だと思います。来年度は目指す倉陵祭が今年とは違ったものになることでしょう。後輩たちには心のままに進み、自分たちだけの倉陵祭を作ってほしいと思います。



模擬店



ステージ発表



祭典：倉陵祭の成功と安全を祈願(斎主・中山郁教授)



竹の伐採から完成まで多くの学生が一致協力した「竹あかり」

第62回 皇高祭 9/19日~20日

テーマ ●Earth ~地球の未来を考える~

最高の皇高祭にできた

校友会総務委員長 押田 君尋 (2年)



今年の皇高祭は昨年とは違い、キッチンカーが多く来てくれました。体育館の音響管理も整っていて、六十周年であった去年に引けを取らない最高の皇高祭でした。

私は、校友会として、2日目のスタートとなる動画の作成と門の飾り付けをさせてもらいました。私自身、総務委員長に就任して初めてのビッグイベントだったので、部活動の大会前から企画の案を練っていました。進行がうまくいかず前校友会の先輩方に助けてもらいながらも、自分が考えていた最高の皇高祭にできたと思っています。



実行委員のメンバー

皇高祭1日目はシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢にて開催。祭典では日ごろの学業成就に感謝し、生徒・教職員全員でその成果を奉告した。続いて行われたのはレシテーションコンテスト(英語スピーチ)。今年が第1回となり、7人の生徒が流暢な英語を披露した。アトラクションでは中国雑技団スーパーアクロバットショーを観覧。生徒参加型コーナーやミニ中国語講座などもあり、大盛り上がりとなった。2日目は本校にてクラス展示や有志発表が行われた。



厳かに執り行われた祭典(斎主・岡部博英教授)



今回初めて行われたレシテーションコンテスト(英語スピーチ)



クラス展示



吹奏楽部による庄巻の演奏

第45回 皇中祭 11/16日~17日

テーマ ●Make good memories ~協力して楽しもう~

クラスがより団結できた

総務副委員長 黒田 若奈 (3年)



今回は私にとって中学校最後の皇中祭であり、またゲストの方が来てくれるなど今までとは違う企画がありとても楽しかったです。

1日目の合唱コンクールは練習のときになかなかハーモニーが揃わず、うまくいかなかったことが多々あっただけに、本番ではうまくいきとても嬉しかったです。加えて、クラスがより団結できたのではないかと思います。ブックレビューバトルは3度目の出場でしたが、これまで一番出来が良く、優勝できて嬉しかったです。

2日目はクラス展示があり、当日までに準備が間に合うのかなど不安が色々ありましたが、無事に当日を迎えることができ良かったです。記念事業の「サンドアート」に関して、動画で見たことはありましたが、実際に生で見ると迫力が凄かったです。体験もさせていただき、サンドアートがいかに難しいものなのか実感しました。

全体を通して、中学校最後の皇中祭に相応しいものとなりました。総務副委員長として全体の事務に携わることができて良かったです。



実行委員のメンバー

1日目は皇學館大学記念講堂にて祭典、合唱コンクール、ブックレビューバトル、日本文化部による争の演奏会が行われた。2日目の午前中は皇學館中学校にてクラス展示、文化部(未来理工、英語部、競技かるた部)の体験ブース、書道・美術作品展示などを行った。いずれのクラス、クラブもこの日に向けて一生懸命準備を進めていた熱意が伝わる発表となった。午後は記念講堂に移動し、サンドアート集団「SILT」によるサンドアートを観覧した。サンドアートを初めて見た生徒がほとんどで、その素晴らしさや迫りに感動していた。



記念講堂で執り行われた祭典(斎主・岩崎眞理教諭)



合唱コンクールは3年A組が優勝



1年生によるクラス展示



2年生によるクラス展示

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

松山心^(現日4)さんがNPBをめざし独立リーグへ

先天性難聴を抱える松山心さんが幼いころからの夢であるプロ野球選手をめざし、独立リーグ・徳島インディゴソックスへの進路を決めた。

身長180センチ、体重88キロ、右腕から繰り出される最速148キロのストレートが持ち味。ろう野球大会の日本代表に2度選出されるなど(本紙88号参照)、実力は折り紙付きだ。4年生の春から本格的な肉体改造に取り組み、現在はベンチプレス90kg、スクワット210kg、デッドリフト235kgと計535kgを上げられるまでに。「プロで求められるため、球速150キロ台後半をめざしている。



座右の銘は「姿即心(すがたすなわちこころ)」と松山さん

コーナーを突く制球力も身に付けたい」と努力を惜しまない。

「手話を使うろう野球と違い、一般野球は口話でコミュニケーションを取らなければいけないので難しい」と松山さん。本来は人見知りするタイプだが、自分から積極的に話しかけるよう心掛けていているという。また、自身が試合に出られない中、チームメイトが次々と結果を残し焦りを感じることもあったが、長所を伸ばす練習をすれば結果がついてきたと話す。「障害があっても、プロで活躍できると示したい」——夢は始まったばかりだ。

ふみくら倶楽部が「Library of the Year 2024」協賛社特別賞受賞



11月7日、バンフィコ横浜で開催された図書館総合展にて表彰式が行われ、ふみくら倶楽部のメンバー8名が参加。協賛社を代表してキハラ株式会社の木原一雄社長より賞状を授与された

本学附属図書館を中心に活動する学生ボランティア団体「ふみくら倶楽部」が「Library of the Year 2024」の協賛社特別賞を受賞した。

「Library of the Year」は、これからの図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行っている機関に対して、NPO法人知的資源イニシアティブ(IRI)が2006年から毎年授与している賞。ふみくら倶楽部は今回「地域社会と大学図書館とをつなげる開かれた学生協働活動」として、「伊勢河崎一箱古本市」の開催や県内公共図書館との連携イベントの実施など、地域社会との交流に活動領域を広げたことで、従来の学生協働の認識をよりオープンなものに変えていると高く評価された。また、大学図書館内外のさまざまな交流ネットワークで培った知識と経験を図書館活動に還元し、展示やイベント企画にも工夫を凝らすなど新たな図書館の魅力を発信している点、1年ごとにメンバーが入れ替わる大学において、コロナ禍を経ても活動を継続している安定した組織づくりも受賞理由に挙げられた。

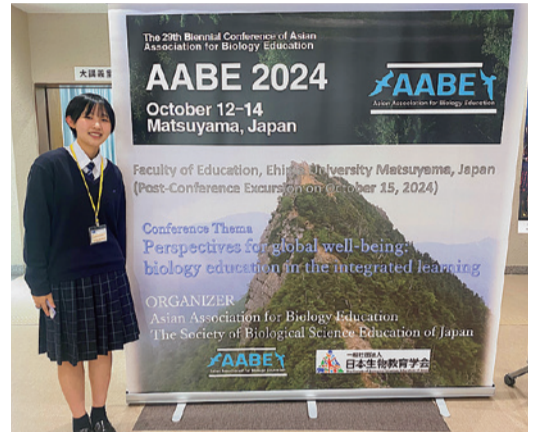
皇學館高等学校 勝田茉莉^(2年)さんがアジア生物学教育協議会で研究発表

アジア生物学教育協議会 AABE 2024

皇學館高等学校2年の勝田茉莉さんが10月12日から14日にかけて愛媛大学で開催されたアジア生物学教育協議会(Asian Association for Biology Education)2024*に参加し、「フェモラータオオモボトハムシ」の研究結果をポスター発表した。

フェモラータオオモボトハムシは東南アジアやインド、中国南部などの熱帯地域に広く分布する羽虫の一種。国内では平成21年に松阪市に定着していることが発表され、以降、生息域の拡大が懸念されている。犬の散歩中に赤紫色に光るこの虫を見かけ、興味を持ったと話す勝田さん。研究する中で、成虫期間が倍に伸びているなど新たな発見があったという。

ポスターはもちろん、発表や質疑応答など会議はすべて英語で行われた。生物の専門用語などの翻訳に苦労したが、想定される質問や回答をしっかりと準備したため、当日は楽しむ余裕があったという勝田さん。今回の参加を通して、コミュニケーション力が高まったと話す。今後はさらに語学力を磨き、化学や生物の知識を増やして、大学では環境問題に取り組むたいと意欲を語った。



高校生ポスター発表部門に参加した勝田さん



フィリピンの公園で「フェモラータオオモボトハムシ」を見つけたと話しかけられたそう

*アジア生物学教育協議会(AABE)は、主にアジア地域の生物学教育者、生物学研究者、生物学教育に関心のある人々で構成される非営利の学術団体。アジア諸国における生物学の教育の改善及び研究の促進、国際会議の隔年開催、生物教育に関する国際誌「Asian Journal of Biology Education」の発行などを行っている。

特別企画 押し本ブック・トーク

ふみくら倶楽部メンバーの2人が令和7年(2025)に向けおすすめの本を紹介します。



左から中村さん、西潟さん

中村始桜さん(国文4)の押し本

『ラジオの技術・産業の百年史 大衆メディアの誕生と変遷』

岡部匡伸著

勉誠出版◆2020年12月◆定価 5940円

2025年がラジオ開局100周年にあたるため、ラジオを聴かない人も、この機会にラジオについて勉強してみてもいいのではないかと思います。550ページと分厚いですが、内容がかなり細かく分かれているので読みやすいです。まずは興味のある節だけでも読んでみてください。



西潟史有香さん(国文4)の押し本

『三島由紀夫レター教室』(小沢健二デザイン帯付き)

三島由紀夫著

筑摩書房◆1991年12月◆定価 682円

私も100年つながりで、2025年に生誕100周年を迎える三島由紀夫の本を選びました。三島作品の中では重たい気持ちにならず読める本です。男女5人のさまざまな出来事がすべて手紙形式で表現されており、ユーモアと皮肉たっぷりです。笑いながら読める作品です。

